

関東・東北豪雨水害

～東京の生協で力を合わせて～

被災地支援活動通信 No.6

発行日:2015年12月11日 発行:東京都生活協同組合連合会 竹内 誠(専務理事)

東京都新宿区北新宿 4-8-16 北新宿君嶋ビル 8階 電話:03-6844-3563 <http://www.coop-toren.or.jp/>

12月1日(火)から3か所目の天満町公民館、12月4日(金)から4か所目の若宮戸地区でのふれあい喫茶を実施しています。

10月27日(火)より開始したふれあい喫茶活動は12月25日まで継続して実施します

毎週火曜日は、常総市水海道橋本町の「やきとり鳥茂」の駐車場と、12月1日より天満町公民館(常総市水海道高野町)の2か所で実施。毎週金曜日は、常総市水海道橋本町の「八間堀団地集会所」と、12月4日より若宮戸地区(常総市若宮戸)の2か所で実施しています。連合東京や東京都社会福祉協議会、シャンティ国際ボランティア会など多くの方と一緒に生協の仲間も被災者の方々のペースに合わせて一緒に活動をしています。活動がすすむ中、地元の方が喫茶お手伝いやチラシ配布をお手伝いくださったり、多くの団体からの喫茶の食材の提供がされています。



12月1日(火) 天満町公民館での最初のふれあい喫茶。先週の開催告知チラシ配布時に、ほとんど日中に人がいなかったことから参加者が少ないのではと思っていましたが、偶然、喫茶開催前に、水害後、久しぶりに地区の「お花教室」が公民館で実施されたこともあり、その参加者が多数喫茶にも参加(42名)してくれました。



12月4日（金） 八間堀団地集会所

風が強いという予報が出ていたので、集会所内での開催も検討されましたが、準備段階では風がなかったため、通常通り屋外での喫茶を実施しました。先週に引き続き、いばらきコープの地元の組合員理事さん2名がお手伝いに来てくださいました。また、足湯隊が来られて、集会所内での足湯の提供がありました。

12月4日（金） 若宮戸地区

若宮戸での最初のふれあい喫茶。直前の開催決定だったことから事前のチラシ配布等はできず、お昼の炊き出し後にそのまま喫茶を開催する形で実施しました。12時から土浦めぐみ教会による昼食の炊き出し（お弁当配布）があったため、準備段階からある程度近所の方が集まっていたのですが、食事が終わると帰ってしまう方が多く、風が強くて寒かったせいもありますが改めて午後にお茶のみに出てくるという方はほとんどいらっしゃいませんでした。

参加者からの報告（11月27日・八間堀団地集会所）

はじめて参加しました。次回火曜日開催告知のチラシを配布にご近所各戸を回らせていただきました。水害発生からまもなく3ヶ月になろうというのに修理中や空家となった家がまだまだ多いことに驚きました。工事の手が回りきらず年明けから修理開始となる方が多いとのこと。被災者の皆さんが今回の喫茶室で笑顔になっていただけたので少しはお役に立てたかなと思います。 東都生協 小澤さん



参加者からの報告（12月4日・天満町公民館）

シャンティ国際ボランティア会、パルシステム東京など4名で移動喫茶を行い、ホットケーキと飲み物を提供する中で、地域の「場」を作ることを目指しました。1時半の開始時刻20分前から、3名の方々が来訪、総勢で4時までに27名（男性4名）が、参加、ボランティアとの交流も適い、充実した活動が行えました。宣伝のため事前に、チラシ撒きを行うため町を歩くことができました。一見すると、個々の住宅に、工事が開始され、復興が進んでいるようにも見えます。しかし、川には、沢山の被災ゴミが残され、アパートなどには、薬や汚泥の匂いが残っているところがあります。ボランティアというと、「瓦礫の処理」等を思い浮かべるのですが、その重要性はありつつも、地域の「場」づくりのために、東京災害ボランティアネットワークの、大人数で少しずつ「バトン」をつないでいくことで実現していくスタイルは、重要だと思えます。一人が、1歩ずつ100人集まっていくことの意義もあると思えました。 生活クラブ・東京 米倉さん



チラシ配布中に、在宅の方が、「知っていたけど迷っていた…喫茶に来るきっかけが出来た」とおっしゃっていて、声かけの大切さを感じました。集まった被災者の方々は、お知り合いで話されていたのですが、久しぶりと言う声から集まれる場所としての機能が果たせて良かったなと思いました。男性は、「話すことないけど…チラシもらったし、来てみたよ」と会館に上がられて話し込んで行かれました。公民館の開催カレンダーは9月のままでしたが会館利用の様子から地域のお祭りの準備やカラオケ大会と頻りに利用されていた会館のようでした。ふれあい喫茶がきっかけで、また予定表がうまることを願っています。

パルシステム東京 石橋さん

在宅している人は「先週も開催していたのは知っていたけどなかなか行けなくて、今日は行きます」など笑顔で迎えていただきました。車移動中は被災の爪痕は道の改修ぐらいしか分かりませんでしたが、歩いてみるとリフォーム中の家や、集合住宅は1階部分を全面床張替え作業換気で全てのドアが開かれ不自然な光景がありました。住んでいるかわからないお宅も多く、自分の地域で知り合いが急に減り、静かな町になる事が日常になるのは本当にさびしい事だなと感じました。寒さも本格的になり、道を歩く人も少なくなるなか、近くの集会所で開かれた喫茶コーナーに集まっただけでした。災害以来久々に顔を合わせる方もいらっしゃり、本当に人が集う場所の機会ができたのだと実感。外に出歩くきっかけになることができたとしたらうれしいです。多くの人に参加してもらって、活動のリレーができればと思います。

生活クラブ連合会 三木さん

